

つながる、見守る、支え合う

～「地域見守り活動」の取り組み～

手稲区災害時要援護者避難支援講演会 (平成25年11月8日開催)

～手稲区福祉のまち推進センター活動セミナー～

講演テーマ：深めよう地域の絆、高めよう地域の防災・福祉力
～東日本大震災の教訓を活かした全国各地における取り組みとその支援～

講師：コミュニティ・エンパワメント・オフィス FEEL DO 代表 桑原英文氏



桑原英文氏
地域づくりのアドバイザーや、被災地復興支援者への支援などで活躍している。

平時の活動の積み重ねが、災害時などのいざというときに役立つ。

災害が起こったとき、まず最初に助けてくれるのは家族で、次が顔見知りのお隣さん。顔が分かっているから「助けてあげよう」という気持ちになる。これが大切。

そのためには、日常からの

付き合いが重要。災害時など困ったときだけ助けてもらうのは無理。

最近は、高齢者や障がい者の一人暮らし、引きこもりなど、地域から孤立しやすい状況にある人が増えている。「日常からのつながり」を持つことが、災害時の支援活動に成果があることが分かってきた。

東日本大震災で被害を受け

た宮城県栗原市では、町内会の人たちが自分たちの街を歩き「危険ポイント」や「安心ポイント」などを防災マップに書き込んだりしている。こういった活動は、参加者の仲間意識の形成に大変役に立つ。今後、子どもの目線から見た危険な場所などが防災マップに加われば、さらに厚みが出てくる。

活動には若い力が必要。中高生を住民の一人として、地域活動にどんどん参加してもらおう。

東日本大震災の避難所で、一番活躍したのが地元の中高生、大学生だった。

学校に行けず時間を持て余し気味だった子どもたちに「配膳」や「清掃」の役割を

分担すると、がぜん意欲的になった。ついには、避難所自治会の運営の一端を担うほどになり、若い人の力強さと能力の高さに関心した。

「子ども」ではなく「住民の一人」として、活動に参加してもらうことが大切と感じた。

また、生徒の福祉活動を地域の見守り活動に生かしているのが、高知県南国市。こ

では、中学生のグループ「おはよう隊」が、毎朝、高齢者宅を訪問し「おはよう」のあいさつとともに元気を届けることが安否確認となり、地域活動を担うことにつながっている。

ほんのささいなことでも、地域で暮らす「住民の一人」としての、十分な活動となっている。



社会福祉協議会の取り組み

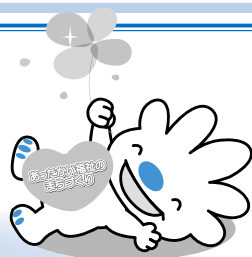
身近な気付きや活動が地域を変えていくことがあります。

例えば、地域に住む高齢者などのお宅で

- 夜になっても洗濯物が干してある
- 郵便受けに新聞や郵便物がたくさん残っている
- 普段はきれいに除雪しているのに、雪が積もったままになっている

といった、隣近所の日常生活にちょっと意識を向けるだけで、さまざまな気付きが生まれます。この気付きから、お互いに支え合う福祉のまちづくりを進めていこうというのが「見守り活動」です。社会福祉協議会では、この「見守り活動」を柱に、手稲区内の各地区社会福祉協議会に設置されている「福祉のまち推進センター」を拠点とし、地域住民や町内会、福祉活動関係者・関係機関と共に活動（「福まち活動」）を進めています。

手稲区社会福祉協議会では、各地区の「福まち活動」を支援しているほか、仕事や学校などで日中に活動できない方々の参加を促進するため「地域見守りサポーター養成講座」を実施し、無料の出張研修を行っています。また見守り活動を始めたいという町内会へは、研修会の開催など、さまざまな活動支援を行っていますので、気軽にご相談ください。



「見守り活動」のノウハウが満載の手引書です。

これらの手引書を活用して研修会を開催しています。



【詳細】手稲区社会福祉協議会 ☎ 681-2644